

集中豪雨による冠水・土砂流入被害対策

7月17日～18日にかけての集中豪雨により、冠水・土砂流入があったほ場等では、今後の生育への影響が懸念されます。被害軽減に向け、適切な管理に努めてください。

1 冠水により予想される被害

- ・ 主な被害は、下葉の黄化・穂数の減少・出穂遅延・穂の出すくみ・幼穂枯死・枝穂の発生など。
- ・ 冠水1日程度では稲体への影響は小さい。2日以上で被害が大きくなる。
- ・ 出穂12日前頃が最も被害が大きく、次いで幼穂形成期、出穂・開花期の被害が大きい。
- ・ 水温が高いほど被害が大きく、清水より濁水の方が被害が大きい。
- ・ 稲体が軟弱になり、病害虫が多発生しやすい。

☆冠水とは：
稲全体が水中に没し、水面上に全く見えない状態。

2 土砂流入により予想される被害

- ・ 土砂流入により幼穂が枯死し始めると、枝穂が発生する。流入した土砂の層が厚いほど枝穂の発生率が高まり、節から冠根が発生することで、葉色が濃くなる場合が多い。
- ・ 枝穂発生により出穂期及び成熟期の遅れやばらつきが発生し、未熟粒が増加する。このため整粒歩合が低下し、収量が減少する。

3 穂肥対策

- ・ 冠水日数が1日程度の場合は、稲体への影響が小さいので、通常の穂肥施用とする。
- ・ 冠水日数が2日以上になった場合は、葉色など生育の変化や病害虫の発生に注意しながら、穂肥量を控えるなど慎重に対応する。
- ・ 土砂が流入した部分は、枝穂の発生を助長するので、穂肥は施用しない。

4 病害虫防除対策

稲体が軟弱になり、病害虫が多発生しやすいので早期発見、早期防除に努める。

- (1) 葉いもち： 発生を認めたら直ちに薬剤防除する。
- (2) 紋枯病： 発生に注意し、要防除水準を超えたら直ちに防除する。
- (3) アワヨトウ： 集中加害を受けやすいので、発生を認めたら直ちに殺虫剤を散布する。
- (4) イネツトムシ： 葉色の濃いほ場は加害が多くなるので、葉の綴り初めとなる幼虫の孵化初期(7月下旬から8月上旬)に殺虫剤を散布する。

※ 穂肥診断等の詳しい資料は指導会資料(営農センター、振興局HP等)をご覧ください。携帯メール会員募集！営農センターへお問い合わせください。